

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		スポーツ奨励事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別					
	推進施策	1 スポーツ活動の推進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民							
	意図	・市民のスポーツに対する意識の高揚や競技力の向上等を図る。 ・青少年の健全育成とスポーツ参画の推進を図る。							
	成果	・市民のスポーツに対する意識の高揚や競技力の向上。 ・青少年のスポーツ参画の推進。							
	手段	・スポーツの奨励・発展のために、全国大会等へ出場する市民への祝金交付。 ・県大会以上の大会で優秀な成績をあげた選手、団体への表彰。 ・周南市スポーツ少年団本部に対し、加盟団体の活動を推進するための補助金交付。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		全国大会出場者		目標値	%	500	500	500	500
				実績値	%	107	335	385	-
				目標達成度	%	21.4	67.0	77.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		9,904	4,983	6,816	6,466	5,891		
	事業費		6,346	2,997	3,691	4,239	4,234		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	136	0	0	0	0		
	一般財源		6,210	2,997	3,691	4,239	4,234		
	人件費合計		3,558	1,986	3,125	2,227	1,657		
正職員		3,558	1,789	3,125	2,090	1,657			
正職員以外		0	197	0	137	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.49	0.25	0.44	0.29	0.23			
	正職員以外 (人)	0.00	0.20	0.00	0.05	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	スポーツの奨励等を目的として、全国大会等出場者への祝金の交付や優秀成績者の表彰を実施。								
	現状の周辺環境								
全国大会等出場者への祝金の交付や優秀成績者の表彰・横断幕の設置等を実施。									
今後の予想される周辺環境									
少子化に伴う、スポーツ少年団加入者の更なる減少や団の解散。部活動地域移行後の新たな表彰制度の研究。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	本市のスポーツ振興や青少年の健全育成につながる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	成績優秀者の表彰式はコロナ前と同様に開催することができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	祝金の交付や成績優秀者の表彰制度とこれらの申請手続きについては、見直す余地がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B		本事業の実施により、本市のスポーツ活動の活性化や競技レベルの向上につながることから、事業の効果的な実施手法等を検討する必要があると考える。						
改革案	今後の実施方向性	維持	市民のスポーツに対する意識の高揚がより図れるよう、祝金の交付や成績優秀者の表彰の手法について検討していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		スポーツ振興一般事務費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別					
	推進施策	1 スポーツ活動の推進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民及び各大会等参加者							
	意図	市民や競技団体等が取組むスポーツ活動に対し、行政がサポートすることで、市民の自発的な活動を促し、スポーツ社会の進展を図る。							
	成果	市民や競技団体が誘致・開催するスポーツコンベンション・スポーツ大会等や、市民のスポーツ参加者数の増加。							
	手段	・市内で開催されるスポーツ大会等に対して、共催や後援による支援を行う。・市民にスポーツ活動の機会を提供するため、学校施設でのスポーツ開放の支援を行う。・市役所前庭に全国大会で優勝した選手・団体の看板を設置。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		後援・共催件数		目標値	%	150	150	150	150
				実績値	%	69	100	128	-
				目標達成度	%	46.0	66.7	85.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		4,793	3,626	5,745	7,206	5,687		
	事業費		1,743	156	560	317	2,156		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	1,500		
	一般財源		1,743	156	560	317	656		
	人件費合計		3,050	3,470	5,185	6,889	3,531		
正職員		3,050	3,077	5,185	6,341	3,531			
正職員以外		0	393	0	548	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.42	0.43	0.73	0.88	0.49			
	正職員以外 (人)	0.00	0.80	0.00	0.20	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	競技スポーツだけでなく、ライフステージ等に応じた多様なスポーツ活動が重視され始めた。								
	現状の周辺環境								
令和3年度に改訂したスポーツ推進計画に則りスポーツ振興の取組みを行った。中学生部活動の地域移行後を見据えて、生涯にわたりスポーツ活動に親しむことができる機会を提供するために関係者との協議を実施した。									
今後の予想される周辺環境									
高齢化社会の進展に伴い、生涯スポーツの重要性が高まることなどが予想される。また、コロナ禍で市民がスポーツをする機会が減少したため、安心安全に活動できる環境を提供する必要がある。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）		A	スポーツ大会の共催や後援、スポーツ開放による活動の場の提供により、市民の健康や福祉の向上及び地域の活性化等が図られる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	生涯スポーツの活動の場の提供や共催・後援によるスポーツ大会等への支援が実施できた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	スポーツ開放の予約管理に係るシステムの構築（実証事業）に取り組み、導入に向けた課題等を把握することができた。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	中学校部活動の地域移行後のスポーツ活動について、関係者との協議を重ねることができた。また、スポーツ開放予約システム構築にかかる実証事業により、今後のスポーツ機会提供のための準備に着手できた。							
改革案	今後の実施方向性	拡充	教育部や学校、地域のスポーツ団体と協力しスポーツ開放予約システムの導入に向けて取り組む。						
	成果方向性	成果上昇							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
利用者の利便性の向上、学校・行政の管理作業の効率化、予約状況の見える化によりスポーツ団体の活動の活性化が図られる。									

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		スポーツ推進委員関係経費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別				
	推進施策	2 スポーツ環境の充実		実施計画	総合戦略			
事業概要	対象	スポーツ推進委員						
	意図	地域に密着したスポーツ推進委員と地域団体の連携により、地域に則した方法でスポーツ人口の拡大を図る。						
	成果	スポーツ推進委員の資質向上により、本市のスポーツ推進が図られる。						
	手段	・スポーツ推進委員の資質向上のため協議会の運営を行う。・周南3市、山口県、中国地区で連携し、協議会の運営を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		スポーツ推進委員の各種事業等の延べ出席者数		人	1300	1300	1300	1300
				実績値	311	397	804	-
				目標達成度	%	23.9	30.5	61.8
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		5,784	5,212	7,177	7,395	8,207	
	事業費		4,332	4,047	4,123	4,154	4,964	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		4,332	4,047	4,123	4,154	4,964	
	人件費合計		1,452	1,165	3,054	3,241	3,243	
正職員		1,452	1,145	3,054	2,666	3,243		
正職員以外		0	20	0	575	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.20	0.16	0.43	0.37	0.45		
	正職員以外 (人)	0.00	0.02	0.00	0.21	0.00		
環境変等	開始時の周辺環境							
	平成23年のスポーツ基本法の施行に伴い、体育指導委員からスポーツ推進委員へ名称変更された。							
	現状の周辺環境							
高齢化や人口減少により、スポーツ推進委員の選出が困難になっている地域がある。								
今後の予想される周辺環境								
スポーツ推進委員の選出が困難になる地域の増加。部活動地域移行後の各地域のスポーツ振興の担い手としての位置付け。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）		A	地域のスポーツ人口の拡大により、地域の活性化につながることも本市のスポーツ推進にもつながる。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	上半期は新型コロナウイルス感染症の影響で会議やイベントが中止となり、指標の目標値は達成できなかったが、可能な範囲で活動した。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	任期満了により新たにスポーツ推進委員を委嘱したが、委員の高齢化は否めない。定年制の検討や委員不在の地域における選出の働きかけ等を実施する必要がある。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		スポーツ推進委員は本市及び地域のスポーツ振興に大きな役割を果たしており、今後もその活動を支援するとともに、部活動地域移行後の地域のスポーツ振興の担い手としての活動を支援していく必要がある。					
改革案	今後の実施方向性	維持	引き続きスポーツ推進委員の資質向上と活動支援に努め、各地区スポーツ団体との連携が密になるよう取組む。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		スポーツ大会開催事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別				
	推進施策	1 スポーツ活動の推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民及び大会参加者						
	意図	・気軽に参加できるスポーツ大会の開催により、スポーツを行うことへのきっかけをつくる。・地域に根ざしたスポーツ大会の開催により、地域の活性化を図る。 ・各種競技団体の市民大会の開催により、アマチュアスポーツの競技力向上及び普及、振興を促進する。						
	成果	・スポーツへの関心を持つ市民の増加。・スポーツ大会の開催による地域の活性化。・各種競技の市民大会開催による競技力向上や、普及・振興の促進。						
	手段	・スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から市民が気軽に参加できるスポーツ大会「しゅうなんスポーツフェスタ」の開催。・地域に根ざした「大津島ポテトマラソン」や「くまげ鶴の里ウォーク大会」の開催。・各種競技団体の市民大会の開催を体育協会に委託。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		しゅうなんスポーツフェスタ参加者数		人	4000	4000	4000	4000
				人	381	0	1491	-
		目標達成度		%	9.5	0.0	37.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		28,570	21,463	25,503	29,815	24,122	
	事業費		21,672	16,882	17,974	21,247	22,104	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	524	56	81	843	540	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		21,148	16,826	17,893	20,404	21,564	
	人件費合計		6,898	4,581	7,529	8,568	2,018	
正職員		6,898	4,365	7,529	8,431	2,018		
正職員以外		0	216	0	137	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.95	0.61	1.06	1.17	0.28		
	正職員以外 (人)	0.00	0.22	0.00	0.05	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	各種競技で、市内各地区の対抗戦を行う市民スポーツ大会を実施。							
	現状の周辺環境							
広く市民が気軽に参加できることを目的とした、しゅうなんスポーツフェスタを平成25年より開催。								
今後の予想される周辺環境								
幅広い世代を対象としたイベントの実施により、スポーツを「する」だけではなく、「みる」、「ささえる」の視点が一層重視されるようになることが予想される。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)		A	多くの市民がスポーツに親しむことにより、運動をするきっかけづくりや健康づくり、地域の活性化につながる。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	しゅうなんスポーツフェスタは事前申込制にするなど新型コロナウイルス感染症対策をとりながら開催したため、指標の目標値は達成できなかった。各種競技団体による市民大会は、感染防止対策を講じながら開催する大会も増えてきた。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	アフターコロナを見据えて、感染症対策を取りながら工夫をして開催したイベントや大会が多かった。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		スポーツを行うきっかけづくりや、地域に根ざしたスポーツ大会の開催による地域の活性化、各種目の市民大会開催による競技力の向上や普及などを促進するため本事業の継続は必要である。					
改革案	今後の実施方向性	維持	「する」、「みる」、「ささえる」の様々な立場でスポーツに参加する、興味を持つ市民が増えるよう、事業を継続する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		トレーニングルーム運営事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別				
	推進施策	1 スポーツ活動の推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民						
	意図	市民の健康・体力づくりのため、トレーニングルームを開放し、施設利用者の増加や市民の体力づくりを推進する。						
	成果	市民の健康・体力の向上が図れる。						
	手段	市民の健康・体力づくりのため、新南陽ふれあいセンター内にトレーニングルームを設置する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		利用者人数		人	13000	13000	13000	13000
				人	0	0	0	-
		目標達成度		%	0.0	0.0	0.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		2,861	627	618	692	1,638	
	事業費		2,788	402	121	404	413	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	413	
		その他	1,948	0	0	0	0	
	一般財源		840	402	121	404	0	
	人件費合計		73	225	497	288	1,225	
	正職員		73	215	497	288	1,225	
正職員以外		2,452	10	0	0	0		
(事業費集計済)		(2,452)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.01	0.03	0.07	0.04	0.17		
	正職員以外 (人)	1.00	0.01	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	近隣にトレーニング施設がなく、市民の体力及び健康の増進を図るために設置。							
	現状の周辺環境							
近隣の高齢者等の利用希望が増加しているが令和元年度末より新型コロナウイルス感染症対策のため閉館。								
今後の予想される周辺環境								
健康意識の高まりもあり、近隣の高齢者を中心とした利用が見込まれるため、安心安全な施設運営が求められる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B	地区住民等が気軽に利用できる施設であり、市民の健康増進に繋がる。また、交通手段の限られる高齢者等の利用を考慮すると、現状では妥当であるが、近隣に民間施設が開業したこともあり、安心安全な運営方法を検討する必要がある。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		B				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設は休館としたため、指標の目標値は達成できなかったが、器具のメンテナンス等は適正に実施した。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	効率的な施設管理や利用者が安心・安全に利用できる運営方法を検討していく必要がある。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	R2年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館しているが、適切な器具の維持管理等に努めた。今後は、利用者の安心・安全を確保できる運営方法や、施設の方向性を検討する必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	老朽化が進んでいる器具が多いことから、適切な維持管理に努めるとともに、施設の運営方法についても検討する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		回天記念館管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	3 平和学習等の推進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民、入館者及び資料提供者等						
	意図	入館者に平和の尊さについて考察を深めてもらうとともに、大津島の振興にも寄与する。						
	成果	平和学習施設として、回天の史実や平和の尊さについて考える機会を提供できる。						
	手段	・回天記念館の適切な管理運営及び、平和学習を行う。・命と平和の尊さについて考える機会を提供する施設として、回天関係資料の保存、展示及び解説や講話、講座等を通じて、平和啓発を行う。 S43.11開館。開館時間：8：30～16：30。休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始。入館料：大人310円（団体250円）、18歳以下無料。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		入館者数		人	17000	14000	13000	13000
				実績値	8419	7876	9098	-
				目標達成度	%	49.5	56.3	70.0
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		29,231	20,816	15,532	19,884	21,419	
	事業費		19,211	5,290	7,008	5,040	6,142	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	2,795	1,599	1,379	2,005	2,960	
		その他	11,844	2,342	3,298	2,917	2,420	
	一般財源		4,572	1,349	2,331	118	762	
	人件費合計		10,020	15,526	8,524	14,844	15,277	
正職員		10,020	15,526	8,524	14,844	15,277		
正職員以外		2,383	2,528	2,918	2,246	2,477		
(事業費集計済分)		(2,383)	(2,528)	(2,918)	(2,246)	(2,477)		
人員	正職員 (人)	1.38	2.17	1.20	2.06	2.12		
	正職員以外 (人)	4.30	3.00	3.00	3.00	3.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和43年に回天顕彰会及び回天記念館建設賛助会により建設、昭和44年に市へ寄贈、平成10年に全面改修が行われた。							
	現状の周辺環境							
資料の整理と調査を進めるとともに、回天の歴史等を後世に伝えるために、長期的な運営体制づくりと人材確保が必要である。								
今後の予想される周辺環境								
来館者に不便が生じる定期航路の減便等の可能性あり。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的	1. 市の関与（税金支出）	A	回天の史実や平和の尊さについて考える機会を提供することができる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な管理運営を行い、平和学習・啓発を行った。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	資料の展示、解説、講話などにより平和学習施設としての役割を果たしている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	平和の尊さや戦争の悲惨さを考える機会を提供する平和学習施設であり、周南市の特色のある施設として知名度の向上と展示解説等・講話を実施するスタッフの体制維持に努める。						
改革案	今後の実施方向性	維持	回天の史実や記念館の活動を周知するための取り組みを今後も実施し、来館者に平和の尊さ等を考える機会を提供する平和学習施設として運営していく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		回天記念館整備事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権	事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興	会計種別					
	推進施策	3 平和学習等の推進	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	回天記念館						
	意図	命と平和の尊さについて考える機会を提供するために、回天記念館の良好な収蔵環境と快適な展示空間を維持し、施設の整備を行う。						
	成果	施設を安全かつ快適に利用できる。						
	手段	計画的な改修を行い、施設と設備の長寿命化を図る。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		指標なし						
		目標値						
		実績値						-
		目標達成度	%	-	-	-	-	
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		0	0	0	7,657	15,611	
	事業費		0	0	0	6,936	13,017	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	6,900	12,000	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	36	1,017	
	人件費合計		0	0	0	721	2,594	
	正職員		0	0	0	721	2,594	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.10	0.36		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	昭和43年に回天顕彰会及び回天記念館建設賛助会により建設、昭和44年に市へ寄贈、平成10年に全面改修が行われた。							
	現状の周辺環境							
令和4年度は利用者に快適な環境を提供するため、空調設備改修工事を行った。大規模改修及び増築から20年以上経過し、老朽化が進んでいる。								
今後の予想される周辺環境								
建物の改修等や設備の更新に要する費用の増加。LED化の検討が必要。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施する。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	施設を安全かつ快適に利用するために、計画通り改修を実施した。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	適切に整備・改修を実施している。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施した。						
改革案	今後の実施方向性	維持	計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		郷土美術資料館管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	公園内という立地から館を身近に感じてもらえるような事業にも取り組みながら、郷土美術の鑑賞の機会を提供する。							
	成果	適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	会期中のコンサート開催や公園イベント時の館前でのグッズ販売など、館の知名度向上に努め、郷土作品を身近に鑑賞できる機会を提供する。指定管理者：周南市文化振興財団（R3～R7）							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		入館者数		人	7000	7000	7000	7000	
				実績値	人	3694	2749	4214	-
				目標達成度	%	52.8	39.3	60.2	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		14,627	16,494	15,624	17,600	13,702		
	事業費		13,901	15,778	14,914	17,312	12,981		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	156	93	76	102	171		
		その他	13	13	6	15	11		
	一般財源		13,732	15,672	14,832	17,195	12,799		
	人件費合計		726	716	710	288	721		
正職員		726	716	710	288	721			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.10	0.10	0.10	0.04	0.10			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	郷土美術資料館は、画家尾崎正章氏から寄贈された作品を常時展示し、鑑賞できる機会を提供し、市民の文化風土の醸成を図り、広く市民が利用できる施設として、平成7年に、永源山公園内に建築された。								
	現状の周辺環境								
永源山公園内にある施設で、郷土作品の鑑賞の機会を提供できている。									
今後の予想される周辺環境									
今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民文化の向上や育成を図ることができる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な維持管理により、市民文化の育成が図られた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	公園内の立地という条件を活かしながら、美術鑑賞だけでなくコンサート開催等にも取り組んでいるが、さらに特性を活かした事業展開等を協議していく。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	美術博物館との連携や差別化を図りながら、公共性と公益性を維持するとともに両施設の役割を分担し、効果・効率的な運営方法の検討を継続していく必要がある。また、設備等の更新なども、中長期的な方向性を視野に入れながら対応する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である文化振興財団と連携しながら施設の適正な維持管理を行い、施設機能の維持に努めていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		郷土美術資料館整備事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	郷土美術資料館						
	意図	身近に美術作品を鑑賞できる環境を提供するため、郷土美術資料館の良好な収蔵環境と快適な鑑賞空間を維持し、施設の整備を行う。						
	成果	施設を安全かつ快適に利用できる。						
	手段	計画的な改修を行い、施設と設備の長寿命化を図る。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		指標なし						
		目標値						
		実績値						-
		目標達成度	%	-	-	-	-	
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		0	0	0	4,458	0	
	事業費		0	0	0	4,026	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	3,400	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	626	0	
	人件費合計		0	0	0	432	0	
	正職員		0	0	0	432	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	郷土美術資料館は、画家尾崎正章氏から寄贈された作品を常時展示し、鑑賞できる機会を提供し、市民の文化風土の醸成を図り、広く市民が利用できる施設として、平成7年に永源山公園内に建築された。							
	現状の周辺環境							
	開館から25年以上経過し、施設の老朽化による修繕や設備の更新などの必要箇所が増えてきている。							
	今後の予想される周辺環境							
	修繕や設備の更新の必要箇所の増加に伴う、維持管理コストの増加。LED化の検討が必要。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）		A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施する。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	施設を安全かつ快適に利用するために、計画どおり改修工事を実施した。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	指定管理者と協議の上、優先順位を付けて整備・改修を実施している。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修を実施した。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者の文化振興財団と協議しながら、計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		市美術展開催費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	広く一般から作品を募ることで、市民の創作活動を促し美術に対する関心を高めるとともに、鑑賞を通して市民文化の振興を図る。							
	成果	美術に対する関心が高まるとともに、美術鑑賞を通して市民文化の発展に寄与することができる。							
	手段	周南市美術展の開催 美術博物館を会場として、例年10月（前期後期各5日間）に平面・立体・書・写真の4部門で開催。審査を行い、観覧料は無料。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		出品点数		目標値	点	300	300	300	300
				実績値	点	0	0	283	-
				目標達成度	%	0.0	0.0	94.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		3,345	1,942	2,610	3,330	3,037		
	事業費		1,530	153	337	1,528	1,596		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	289	0	0	254	306		
	一般財源		1,241	153	337	1,274	1,290		
	人件費合計		1,815	1,789	2,273	1,802	1,441		
正職員		1,815	1,789	2,273	1,802	1,441			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.25	0.25	0.32	0.25	0.20			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	合併した平成15年から「周南市美術展」として、市民文化に寄与するために開催。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	出品者が高齢化している。R4年度は新型コロナウイルス拡大防止対策（事前申込み制、搬入・搬出の事前通知等）を行い実施した。								
	今後の予想される周辺環境								
	さらなる出品者の高齢化と、若年層も含めた出品者の減少。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	B	市民の創作活動、鑑賞等を通して市民文化の振興を図ることができる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	新型コロナウイルス感染拡大防止対策（事前申込み制、搬入・搬出の事前通知等）を行い、美術鑑賞を通じて市民文化の振興を図ることができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	より意義のある美術展となるよう、若年層の出品促進等、計画的に応募要項等を検討していく必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	R4年度は新型コロナウイルス拡大防止対策（事前申込み制、搬入・搬出の事前通知等）を行い実施した。今後は若年層の出品促進等、計画的に応募要項等を検討していく必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	毎年、有識者で組織される運営委員会を開催し、公平な運営と市民の目標・励みとなるような開催要項を検討しており、今後も継続実施していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		周南緑地体育施設等整備推進事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	令和3年度 ~ 令和4年度			
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別				
	推進施策	2 スポーツ環境の充実		実施計画	該当	総合戦略	該当	
事業概要	対象	周南緑地（東・中央）内の体育施設及び公園施設						
	意図	本市のスポーツコンベンションの拠点施設である周南緑地は、施設の老朽化により再整備等が必要であるが、国の財政状況も厳しく、補助金を活用して整備等を進める従来の手法では、進捗が見込めない状況である。このため、民間のノウハウを活用した施設整備や管理運営等により、施設整備費や維持管理費の財政負担の軽減や利用者の満足度向上を図り、周南緑地をスポーツコンベンションの拠点施設として維持していくことを目的とする。						
	成果	・スポーツコンベンションによる交流人口の増加や賑わいの創出、地域経済の活性化 ・施設整備費や維持管理費等の財政負担の軽減						
	手段	・P F Iの手法を導入し、老朽化が進む陸上競技場等の体育施設や駐車場・園路等の公園施設の整備等の事業費の削減や進捗を図る。 ・民間のノウハウを活用した施設の管理運営により、維持管理費の縮減や利用者の増加、満足度向上を図る。 R4実施内容：PFI事業者選定関係、アドバイザー業務委託、総合スポーツセンター空調改修工事（R4-5債務負担）						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		指標なし		目標値				
				実績値				-
				目標達成度	%	-	-	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		0	0	29,576	45,814	0	
	事業費		0	0	23,183	36,662	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	14	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	3,000	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	20,000	30,000	0	
	一般財源		0	0	183	6,648	0	
	人件費合計		0	0	6,393	9,152	0	
	正職員		0	0	6,393	9,152	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.90	1.27	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	周南緑地は本市の広域スポーツ拠点及び防災拠点であるが、施設の老朽化等により、多くの施設が改修や大規模修繕が必要となった。P F I方式による事業手法の導入可能性調査を実施。							
	現状の周辺環境							
P F I評価委員会の開催、要求水準書等の作成、事業者公募、選定等を実施。								
今後の予想される周辺環境								
大規模な整備を実施することで、周南緑地の機能を維持・充実し、発展させ、スポーツコンベンションの推進拠点となる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	市の拠点となる施設の大規模改修、整備であり、妥当である。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	周南緑地をスポーツコンベンションの拠点施設として維持していくために、P F I事業者を選定した。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	施設の整備及び維持管理について最適な手法を検討した。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	民間活力の導入について、十分に検討し、事業者の選定が実施できた。今後は施設の整備、維持管理運営を適切に行い、市民が親しみやすい施設となるよう事業者、市関係各課、体育協会等と連携し取組む必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	拡充	施設整備、維持管理方法について事業者と協議を重ねていく。（本事業はR4年度で終了とし、次年度からは「周南緑地体育施設等整備管理運営事業」として実施）					
	成果方向性	成果上昇						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		須金和紙センター管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	和紙作り等を体験する機会を提供し、地域に根ざした伝統文化を伝承・維持する。							
	成果	地域に伝わる伝統工芸の伝承と情報発信を図ることができる。							
	手段	須金和紙振興協議会が定期的に和紙絵教室を開催しているほか、体験学習として紙漉き体験を受け入れている。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		利用者数		目標値	人	400	400	400	400
				実績値	人	113	25	61	-
				目標達成度	%	28.3	6.3	15.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		566	557	553	560	1,192		
	事業費		421	414	411	416	471		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		421	414	411	416	471		
	人件費合計		145	143	142	144	721		
正職員		145	143	142	144	721			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.02	0.02	0.02	0.02	0.10			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	紙漉きの伝統技術の継承の場及び須磨小と交流しながら実習できる教育学習施設として平成3年に建築された。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	須金和紙振興協議会（事務局：須金市民センター）が定期的な活動を行うほか、紙漉き体験などを受け入れているが、活動メンバーが高齢化、固定化している。新型コロナウイルスの影響で活動機会が減少するなか、体験教室の受入れは継続して行っているが、後継者の確保の問題が生じている。								
	今後の予想される周辺環境								
	紙漉き指導者や活動を支える人材、後継者の確保の問題が生じる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）		A	地域に伝わる伝統工芸の伝承と情報発信等により、地域の活性化にも寄与している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	新型コロナウイルス感染症の影響及び活動メンバーの高齢化により利用者数は減少したが、適正な維持管理は行われており、地域に根ざした伝統文化の伝承は図られた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		C					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	効率的な維持管理が行われているが、事業内容や運営方法等については、見直す余地がある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	須金の地域施設である点も考慮しながら、施設の設置目的や意義、継続性を関係課や関係団体と協議していく必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	地域に伝わる伝統工芸の伝承という観点から、施設の活用や情報発信等について、須金市民センターも含め関係団体及び関係課と連携・協議を重ねていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		体育協会関連事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別					
	推進施策	3 スポーツ交流の推進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民及び体育協会加盟団体							
	意図	・本市のスポーツ推進のため、市民のスポーツへの関心の高揚や、競技力の向上を図る。・スポーツコンベンションの推進により、交流人口の拡大や賑わいの創出を図る。・部活動地域移行に伴う新たなスポーツ環境を整備することにより、生涯にわたりスポーツ活動に親しむことができる機会を提供する。							
	成果	・体育協会の基盤強化による、競技力の向上やスポーツ人口の拡大。・全国大会等の誘致・開催によるスポーツコンベンションの推進により、交流人口の拡大や賑わいの創出が期待できる。							
	手段	・体育協会が実施するスポーツへの関心や競技力の向上を図るための事業に対し、体育協会の取組みを支援する。・スポーツコンベンション推進のため、全国大会等の誘致、開催に対し補助金の交付等をする。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		市内で開催する中国大会以上の大規模大会誘致数		目標値	件	50	50	50	50
				実績値	件	6	22	25	-
				目標達成度	%	12.0	44.0	50.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		15,912	10,563	11,407	10,319	42,090		
	事業費		14,895	9,704	9,844	9,022	38,271		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	1,002		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	25,851		
	一般財源		14,895	9,704	9,844	9,022	11,418		
	人件費合計		1,017	859	1,563	1,297	3,819		
正職員		1,017	859	1,563	1,297	3,819			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.14	0.12	0.22	0.18	0.53			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	スポーツコンベンションの推進を目的として、平成24年度より全国大会等誘致開催補助金を新設。								
	現状の周辺環境								
体育協会加盟競技団体が主体となって全国大会等の大規模大会を誘致している。									
今後の予想される周辺環境									
大規模大会の誘致に加え、部活動地域移行後の中学生等の活動の場の集約・情報発信・受け皿団体支援等を含めた、生涯スポーツの中心的な役割が求められる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)		A	大規模大会の誘致により、市民がスポーツに関わる機会が増え、競技力の向上も含めたスポーツ振興や、選手・関係者などの訪問によりスポーツコンベンションの推進が図れる。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	大規模大会等の誘致数は減少したため、指標の目標値は達成できなかったが、可能な範囲で事業を実施できた。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	体育協会が専門知識やスキルを活かしてこれまで以上にスポーツ振興に係る活動ができるよう、事業の実施内容等を検討することができた。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B	中学生部活動地域移行に伴う新たなスポーツ環境を整備するために、体育協会の専門的な知識やスキル、人脈を活かしたイベントや教室の実施、各地域のスポーツ団体への助言・活動の支援方法等を検討した。							
改革案	今後の実施方向性	手段変更	体育協会の取組み等に対する支援を継続するとともに、部活動地域移行後の新たな事業について着実に推進する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		体育施設管理費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別				
	推進施策	2 スポーツ環境の充実		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市体育施設						
	意図	スポーツ施設の適正な維持管理により、市民が気軽にスポーツ活動等を実施できる環境の維持及び、スポーツコンベンションの誘致を可能とする。						
	成果	市民のスポーツ活動の推進や大規模大会の誘致による交流人口の拡大、賑わいの創出等が図れる。						
	手段	ライフサイクルコストに配慮した計画的な改修・修繕及び適正な維持管理を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		利用者数（指定管理スポーツ施設）		人	700000	750000	700000	700000
				人	285995	373053	478741	-
		目標達成度		%	40.9	49.7	68.4	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		282,778	255,602	264,479	290,699	113,560	
	事業費		275,735	252,219	260,359	287,667	110,029	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	44,965	29,432	33,909	42,577	7,491	
		その他	1,704	1,517	17,957	1,567	1,664	
	一般財源		229,066	221,270	208,493	243,523	100,874	
	人件費合計		7,043	3,383	4,120	3,032	3,531	
正職員		7,043	3,363	4,120	2,594	3,531		
正職員以外		0	20	0	438	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.97	0.47	0.58	0.36	0.49		
	正職員以外 (人)	0.00	0.02	0.00	0.16	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	市民の要望等により、各地域にスポーツ施設が建設された。							
	現状の周辺環境							
スポーツ施設の老朽化による、維持管理費の増加。光熱費の高騰。								
今後の予想される周辺環境								
維持管理費の一層の増加。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）		A	老朽化した施設が多いが、本市のスポーツコンベンションの拠点施設であり、適正に維持管理する必要がある。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		A				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	新型コロナウイルス感染症の影響による大会やイベントの縮小・中止等で、利用者数の目標値は達成できなかったが、適切に各施設を維持管理することができた。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	指定管理者による施設の適切な維持管理により、市民が安心安全にスポーツを楽しめる環境を提供できた。今後も引き続き施設の長寿化を図っていく必要がある。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	指定管理者との連携により、体育施設の適切な管理を実施できた。今後も平素からの適切な点検・営繕を実施し、安心・安全に利用できる環境を提供する必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	引き続きスポーツ施設の適切な維持管理に努め、施設の長寿命化を図る。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		体育施設整備事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別					
	推進施策	2 スポーツ環境の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市体育施設							
	意図	スポーツ施設を安全で快適に利用できるよう改修・修繕等を行うことによるスポーツ人口の増加と、拠点施設の計画的な改修等によるスポーツコンベンションの推進を図る。							
	成果	体育施設利用者の増加によるスポーツ人口の増加と、スポーツ交流人口の拡大による賑わいの創出等。							
	手段	老朽化が進んでいるスポーツ施設の適切な修繕等を行なうとともに、スポーツコンベンションの拠点となる施設については、ライフサイクルコストを見据えた計画的な改修・整備等に努める。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		スポーツ施設改修工事等件数		目標値	件	2	2	3	3
				実績値	件	3	2	4	-
				目標達成度	%	150.0	100.0	133.3	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		40,809	18,706	13,094	18,927	17,638		
	事業費		34,492	17,704	10,537	16,882	16,053		
	特定財源	国庫支出金	9,955	0	0	0	0		
		県支出金	6,325	6,243	6,408	6,418	0		
		地方債	6,400	6,000	3,400	5,700	5,300		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	10,000	608	0	0	8,000		
	一般財源		1,812	4,853	729	4,764	2,753		
	人件費合計		6,317	1,002	2,557	2,045	1,585		
正職員		6,317	1,002	2,557	2,018	1,585			
正職員以外		0	0	0	27	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.87	0.14	0.36	0.28	0.22			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	市民の要望等により、各地域にスポーツ施設が建設された。								
	現状の周辺環境								
老朽化により、改修・修繕等が必要な施設が増加している。									
今後の予想される周辺環境									
施設の老朽化が進み、改修・修繕コストの一層の増加が予想される。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与 (税支支出)	A	施設を安全かつ快適に利用するには、適切な整備・改修は必要である。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	計画していた工事 (総合スポーツセンター空調改修工事、給湯ボイラー改修工事、多目的ホール床研磨工事) は予定通り実施できた。落雷により総合スポーツセンター火災感知器改修工事を緊急的に実施した。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	老朽化が進む施設の整備等に関して、従来の手法だけではなく、新たな手法を検討していく必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	多くの施設で老朽化が進んでいるため、指定管理者と協議をしながら優先順位を付け、施設の方向性と財政状況等も踏まえた上で計画的に改修等を進め、施設の長寿命化を図る必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	限られた予算の中で優先順位を付け、スポーツ施設の方向性も考慮しながら計画的な改修等を行い、施設の長寿命化を図る。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		地区スポーツ振興事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	3 スポーツの振興		会計種別					
	推進施策	3 スポーツ交流の推進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民							
	意図	・スポーツによる地域活動を通して、地区住民の連帯感を高め、地域づくりを推進する。							
	成果	・地域におけるスポーツ活動の推進。							
	手段	・各地区スポーツ振興団体の運営費補助を行う。・山口市、県体育協会と連携して総合型地域スポーツクラブの育成・拡充を推進する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		地区スポーツ事業参加者数		目標値	人	40000	40000	40000	40000
				実績値	人	4684	5801	11516	-
				目標達成度	%	11.7	14.5	28.8	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		5,380	2,988	3,736	3,189	5,218		
	事業費		3,347	2,396	2,031	1,998	3,344		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		3,347	2,396	2,031	1,998	3,344		
	人件費合計		2,033	592	1,705	1,191	1,874		
正職員		2,033	572	1,705	1,081	1,874			
正職員以外		0	20	0	110	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.28	0.08	0.24	0.15	0.26			
	正職員以外 (人)	0.00	0.02	0.00	0.04	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	各地区においてスポーツ行事等が盛んに行われていた。								
	現状の周辺環境								
高齢化や人口減少により、地区スポーツ団体の維持が困難になっている地域がある。国では中学生部活動地域移行後の受け皿として総合型地域スポーツクラブに期待するところが多い。									
今後の予想される周辺環境									
地区スポーツ団体の維持が困難になる地域の増加。総合型スポーツクラブ設立希望者の増加。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)	A	地域のスポーツ振興により、地域の活性化につながる。総合型地域スポーツクラブへの支援については、県と協力して実施した。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区での大会や行事の中止が相次いだため、指標の目標値は達成できなかったが、各地区スポーツ振興団体への運営費補助は適性に実施できた。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	中学生の部活動地域移行を見据えて、総合型地域スポーツクラブの設立・運営の支援とともに、地域のスポーツ団体の活用、活動の活性化を検討する必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	地域のスポーツ団体や総合型地域スポーツクラブとの連携を強化し、中学生部活動地域移行後の身近なスポーツ活動の場を提供していく必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	拡充	地区スポーツ団体の維持が困難になった地域のスポーツ活動が縮小しないように努めるとともに、中学生の部活動地域移行の受け皿となる団体の支援に取り組む必要がある。						
	成果方向性	成果上昇							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		尾崎記念集会所管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	地域のふれあい活動及び芸術にふれる機会を創出する。							
	成果	地域に根差した施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	・地元婦人会による効率的な管理運営を行う。・文化振興財団の協力により、尾崎正章氏の小作品を鑑賞する機会を提供する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		利用者数		目標値	人	1600	1300	1200	1200
				実績値	人	968	966	1003	-
				目標達成度	%	60.5	74.3	83.6	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		696	760	762	878	1,344		
	事業費		551	545	549	590	623		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	1		
		その他	1	1	1	1	0		
	一般財源		550	544	548	589	622		
	人件費合計		145	215	213	288	721		
正職員		145	215	213	288	721			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.02	0.03	0.03	0.04	0.10			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成4年に旧尾崎医院の土地建物の寄贈を受け、平成5年に尾崎氏的意思もあり、尾崎氏の小作品を鑑賞できる展示室と集会所を併せ持つ施設として開館。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	築90年以上経過し、施設の老朽化が進んでいる。新型コロナウイルスの影響で、地域活動の機会が減少。								
	今後の予想される周辺環境								
	更に老朽化が進み、近隣住宅等に対し安全面で懸念が生じる可能性あり。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的	1. 市の関与（税支支出）	A	地域のふれあい活動や地元ゆかりの作家の作品にふれる機会の場を提供できる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な維持管理により、市民文化の育成が図られた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	地元婦人会等による効率的な維持管理が行われているが、利用者が固定している。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	施設の老朽化に伴い、将来的には廃止も視野に入れた検討をする必要があるが、それまでの間は適切な管理に努める。							
改革案	今後の実施方向性	維持	当面、適正な維持管理を行い施設を維持していくが、安全面等の問題が生じた場合は、施設の廃止、建物の解体等も含めて検討する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		美術博物館管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民等						
	意図	快適な鑑賞空間で優れた美術・芸術にふれる機会を提供し、美術文化に対する関心を高める。						
	成果	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。						
	手段	美術博物館の適切かつ効率的な管理運営を行い、郷土の歴史や質の高い美術の鑑賞機会を提供する。 指定管理者：周南市文化振興財団（R3～R7）						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		入館者数		人	100000	90000	90000	90000
				人	27189	24987	40926	-
		目標達成度		%	27.2	27.8	45.5	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		136,047	140,369	152,107	167,675	184,524	
	事業費		135,176	139,367	150,686	166,738	183,803	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	2,664	1,074	1,905	1,701	3,473	
		その他	1	1	1	1	0	
	一般財源		132,511	138,292	148,780	165,036	180,330	
	人件費合計		871	1,002	1,421	937	721	
正職員		871	1,002	1,421	937	721		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.12	0.14	0.20	0.13	0.10		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	美術博物館は、市民の教育、学術及び文化向上に寄与することを目的に、「美術」、「写真」、「歴史」の3部門を持つ専門施設として、平成7年に建築された。							
	現状の周辺環境							
環境変化等	開館から25年以上経過し、建物や設備の不具合箇所が増加している。空調設備工事のため、令和5年1月から3月まで休館した。							
	今後の予想される周辺環境							
	今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、市民文化の向上や育成が図られる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	適正な管理により、市民文化の育成は図られた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	指定管理者がノウハウを活かし、優れた美術・芸術にふれる機会を提供するなど適正に管理運営されており、最適である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	本市の文化拠点施設として引き続き適正に管理していく。公益性・専門性が高いことや、収蔵品（市の財産）を有することなどから、指定管理者制度を導入しているが、より効率的な施設の管理運営に努める必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である文化振興財団と、緊密に連携をとりながら、適正な維持管理に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		美術博物館企画事業助成事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	全国発信事業の実施を支援し、本市の文化的知名度及び市民の誇りを高める。また、地方において観覧機会の少ない大規模あるいは意義ある展覧会の開催を支援し、質の高い美術芸術を提供する。							
	成果	本市の知名度や文化的イメージの向上と、幅広い世代を対象として市民文化の啓発が図られる。							
	手段	全国発信事業である「林忠彦賞」、及び文化振興財団主催の企画展覧会等の開催を支援する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		企画事業観覧者数		目標値	人	36000	25000	20000	20000
				実績値	人	7564	11024	11370	-
				目標達成度	%	21.0	44.1	56.9	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		10,999	4,413	9,835	8,582	12,700		
	事業費		10,563	3,984	9,551	8,294	10,394		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		10,563	3,984	9,551	8,294	10,394		
	人件費合計		436	429	284	288	2,306		
正職員		436	429	284	288	2,306			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.06	0.06	0.04	0.04	0.32			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	林忠彦賞は、戦後写真界に大きな足跡を残した写真家・林忠彦の多彩な業績を記念し、周南市と公益財団法人周南市文化振興財団が平成3年に、氏の遺志を生かしアマチュア写真の振興を目的として設立創設したものの。								
	現状の周辺環境								
林忠彦賞は、第18回より対象をプロ作家にまで広げること賞の拡大を図っている。全国発信事業である「林忠彦賞」については、東京都で受賞発表会、受賞記念写真展を開催した。また文化振興財団主催の企画展覧会「猫のダヤン35周年 ダヤンと不思議な劇場 池田あきこ原画展」を開催。									
今後の予想される周辺環境									
「林忠彦賞」や企画展覧会等による本市の全国発信と市民文化の啓発を図ることが引き続き必要とされる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）	A	本市の知名度や文化的イメージの向上、展覧会の開催による市民文化の向上等を図ることができた。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	「林忠彦賞」授賞式、写真展を開催。企画展覧会「猫のダヤン35周年 ダヤンと不思議な劇場 池田あきこ原画展」も開催。質の高い美術芸術の提供及び市民文化の向上に寄与できた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	実施方法や企画内容等を文化振興財団とともに検討していく必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	林忠彦賞は、林忠彦氏の顕彰を目的として創出された全国発信事業である。関係者への認知度は高まっており、今後は市民への情報発信により力を入れて継続して実施する必要がある。また、企画展覧会についても、収益が見込め、かつ質の高い展覧会の開催がなされるよう支援する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	「林忠彦賞」は全国発信事業として市の知名度や文化的イメージの向上に、企画展覧会等幅広い世代を対象として市民文化の向上等に寄与しているため、補助内容や企画内容を検証しながら、引き続き実施する。「林忠彦賞」においては、市民への情報発信の取組みを検討し推進する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		美術博物館資料収集事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権	事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興	会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	美術品等						
	意図	市民の財産として、後世に残すべき特色のある芸術品や歴史を伝える資料などを収集する。						
	成果	美術博物館資料収集委員会により適正な評価を受けた芸術品や資料などを収集することができ、展覧会の開催時に広く公開することができる。						
	手段	郷土ゆかりの優れた作家の作品や特色ある芸術品、郷土に関わりのある歴史資料などを、資料収集委員会の承認を経て収集する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		新規収集点数	目標値	点	3	0	3	0
			実績値	点	20	0	24	-
			目標達成度	%	666.7	-	800.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		4,085	2,622	0	3,433	0	
	事業費		3,045	1,742	0	2,784	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		3,045	1,742	0	2,784	0	
	人件費合計		1,040	880	0	649	0	
	正職員		1,040	880	0	649	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.13	0.11	0.00	0.09	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	平成15年度以降は購入を中止していたが、平成21年度から再開した。							
	現状の周辺環境							
資料収集委員会を設置し、購入、寄贈又は寄託により、芸術品や資料を収集している。								
今後の予想される周辺環境								
歴史的に貴重な作品や、林忠彦、まど・みちお、宮崎進等の評価が定まった作品以外にも、これから育っていく周南ゆかりの作家についての収集も必要となってくる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	本市にゆかりのある作家の作品等について、市民がふれる・みる機会を提供できるため、妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	資料収集を適正に行った。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	資料収集委員会により適正な評価を受けた芸術品や資料を収集できているため、実施手段は最適である。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	絵画、資料等の収集とともに、今後も、収蔵品の定期的な展示など積極的な活用や美術博物館の大きな役割でもある資料等の調査・研究のためのデータ化等による保存も積極的に実施していく必要がある。現在は隔年で実施している。						
改革案	今後の実施方向性	廃止・休止						
	成果方向性							
	コスト方向性							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		美術博物館整備事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	美術博物館							
	意図	美術博物館の良好な収蔵環境と快適な鑑賞空間を維持し、身近に美術作品を鑑賞できる環境を提供するために施設の整備を行う。							
	成果	施設を安全かつ快適に利用できる。							
	手段	計画的な改修を行い、施設と設備の長寿命化を図る。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		美術博物館改修工事等件数		目標値	件	1	1	1	1
				実績値	件	1	1	2	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	200.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		0	6,972	4,353	42,840	41,976		
	事業費		0	6,185	3,430	42,336	41,039		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	5,500	2,900	38,100	31,900		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	9,100		
	一般財源		0	685	530	4,236	39		
	人件費合計		0	787	923	504	937		
	正職員		0	787	923	504	937		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.11	0.13	0.07	0.13			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	美術博物館は、市民の教育、学術及び文化向上に寄与することを目的に、「美術」、「写真」、「歴史」の3部門を持つ専門施設として、平成7年に建築された。								
	現状の周辺環境								
美術品等を収蔵・展示することから、空調等に細心の注意を払い、年間を通じて適正に温湿度を管理する必要があり、施設・設備の改修・改善が必要。									
今後の予想される周辺環境									
建物の改修等や設備の更新に要する費用の増加。LED化の検討が必要。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税支支出）		A	施設を安全かつ快適に利用するために、適切な整備・改修は必要である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	計画どおり改修工事を実施した。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	指定管理者と協議の上、優先順位を付けて整備・改修をしている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A		ライフサイクルコストを踏まえ、計画的に整備・改修していく必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者の文化振興財団等と協議しながら、計画的な改修等を実施し、施設の長寿命化を図る。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		美術博物館特別展覧会等開催事業費			担当所属	文化スポーツ課		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別				
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民等						
	意図	本市にゆかりのある作家の顕彰や関連する内容を調査研究し、独自に企画した本市ならではの意義ある展覧会を開催することで、美術に対して市民等の関心を高める。						
	成果	本市ならではの質の高い展覧会の開催により、美術に対する市民等の関心が高まる。						
	手段	地元で活躍する作家の近作を紹介する秀作美術展「しゅうなんアート・ナウ2022」及び本市ならではの質の高い特別展覧会を開催する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込
		特別展覧会等開催数		回	2	1	2	2
				回	1	1	2	-
		目標達成度		%	50.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	
	トータルコスト		12,684	12,594	1,375	14,696	13,959	
	事業費		10,941	10,877	523	13,255	11,653	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	1,447	1,765	0	1,338	4,400	
		その他	1,124	486	523	1,946	5,380	
	一般財源		8,370	8,626	0	9,971	1,873	
	人件費合計		1,743	1,717	852	1,441	2,306	
正職員		1,743	1,717	852	1,441	2,306		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.24	0.24	0.12	0.20	0.32		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	本市ならではの、質の高い芸術の鑑賞機会の提供を目的として開始。							
	現状の周辺環境							
アート・ナウ2022を開催。令和4年度の特別展覧会は、「生誕100年宮崎進展 終わりなき旅」を開催した。								
今後の予想される周辺環境								
今後もより多くの市民に観覧してもらえ、意義のある展覧会が開催できるよう、調査研究していく必要がある。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	本市ならではの質の高い展覧会の開催により、市民文化の向上につながる。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	地元で活躍する作家の近作を紹介する意義ある展覧会を開催し、美術に対する市民等の関心を高めた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	より意義のある展覧会が開催できるよう、継続的に企画内容を検討していく必要がある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	特別展は、周南市ならではのテーマを選定し、企画力の高いものとなるように調査研究に努める必要がある。アート・ナウ展は、今後も開催方法の見直しなどを継続して検討する必要がある。						
改革案	今後の実施方向性	維持	文化振興財団に委託して特別展を開催しているが、調査研究も必要となることから計画的なテーマの選定と予算措置を行っていく。また、アート・ナウ展は、関係者と協議の上、今後も開催方法等を見直ししていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		文化会館管理運営事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	文化会館の良好な活動環境と快適な鑑賞空間を維持し、質の高い舞台芸術・展覧会・講演会等、優れた文化・芸術にふれる機会を提供する。							
	成果	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、利用者の利便性の向上や市民文化の育成が図られる。							
	手段	指定管理者により、文化会館を安全かつ効率的に管理運営し、優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供する。 指定管理者：周南市文化振興財団（R3～R7）							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		利用率		目標値	%	70	75	75	75
				実績値	%	52.3	61.8	64.8	-
				目標達成度	%	74.7	82.4	86.4	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		130,727	133,951	147,633	148,898	167,959		
	事業費		130,001	132,806	145,857	146,304	167,238		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	47,039	17,671	29,697	36,795	49,867		
		その他	1,122	0	0	23	1,130		
	一般財源		81,840	115,135	116,160	109,486	116,241		
	人件費合計		726	1,145	1,776	2,594	721		
正職員		726	1,145	1,776	2,594	721			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.10	0.16	0.25	0.36	0.10			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成18年度から指定管理者制度を導入し、周南市文化振興財団を指定管理者としている。								
	現状の周辺環境								
開館から40年が経過し、建物や設備の老朽化が見られる。新型コロナウイルスの影響で、中止となった事業等があった。									
今後の予想される周辺環境									
今後も市民文化の啓発を図ることが必要とされる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	文化・芸術活動の拠点施設の適正な維持管理により、市民文化の向上や育成が図られる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	適正に管理運営ができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	指定管理者がノウハウを活かし、優れた文化・芸術にふれる機会を提供するなど、適正に管理運営されており、最適である。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	本市の文化拠点施設として引き続き適正に管理していく。公益財団法人として一定の制約はあるが、経営という視点で、施設の利用者（出演者、観覧者等）へのサービスやチケットの販売促進、会員の勧誘など営業努力は必要である。							
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者である文化振興財団と、緊密に連携をとりながら、適正な維持管理に努める。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		文化行事等開催費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	山口県総合芸術文化祭分野別フェスティバルの事業実施団体							
	意図	県・市及び文化団体が、連携・協力して山口県総合芸術文化祭を盛り上げ支援することで、市民文化の向上及び振興を図る。							
	成果	山口県及び県内文化団体との連携による山口県総合芸術文化祭の分野別フェスティバルの開催地（共催）支援として、「周南市文化事業等開催費補助金交付要綱」に基づき、令和4年度は周南邦楽連盟、周南邦舞連盟に対して支援を行う。							
	手段	山口県及び県内文化団体との連携による山口県総合芸術文化祭の分野別フェスティバルの開催地（共催）支援として、「周南市文化事業等開催費補助金交付要綱」に基づき補助支援を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		文化事業等開催費補助金交付		目標値	件	0	0	2	1
				実績値	件	0	0	2	-
				目標達成度	%	-	-	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		200	0	0	544	1,137		
	事業費		200	0	0	400	200		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		200	0	0	400	200		
	人件費合計		0	0	0	144	937		
正職員		0	0	0	144	937			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.02	0.13			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	県総合芸術文化祭が開催されるにあたり、県事業などとの連携や市民による文化事業を支援・後援することとなった。								
	現状の周辺環境								
県総合芸術文化祭の開催地として、補助事業を行っている。									
今後の予想される周辺環境									
今後も県総合芸術文化祭の開催地として、市民による文化事業の支援を行う。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税金支出）	A	文化活動を支援する補助事業であるため、妥当である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	B						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	適正に補助金を交付した。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	山口県総合芸術文化祭が開催できているため、実施手段は最適である。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	山口県総合芸術文化祭開催のために開催地として活動団体に補助を行ってきたが、令和2年度からは県が補助金の交付を終了したため、市としても支援の在り方について検討を行う必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	縮小	山口県総合芸術文化祭開催のために県とともに設置された補助金である。県の補助金が終了したため、市としても支援の在り方について検討を行う必要がある。						
	成果方向性	成果縮小							
	コスト方向性	コスト削減							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		文化振興一般事務費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民等							
	意図	文化振興事務の円滑化及び市民や団体等の文化活動の支援、本市ゆかりの作家の顕彰。							
	成果	文化活動を振興する団体や市民の文化活動等を支援することで、市民の文化レベルの維持と向上を図ることができる。							
	手段	・文化振興に係る事務を円滑に進める。・文化振興財団、文化協会等の文化振興団体との連携を深める。・文化行事等に対して、共催や後援による支援を行う。・まど・みちおの顕彰事業として、徳山駅でまど作詞の童謡のメロディを到着音として流す。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		後援件数		目標値	件	60	60	50	50
				実績値	件	12	20	36	-
				目標達成度	%	20.0	33.3	72.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		3,186	2,064	2,172	2,858	4,811		
	事業費		1,371	132	112	192	2,001		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	1,760		
	一般財源		1,371	132	112	192	241		
	人件費合計		1,815	1,932	2,060	2,666	2,810		
正職員		1,815	1,932	2,060	2,666	2,810			
正職員以外		1,544	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(1,544)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.25	0.27	0.29	0.37	0.39			
	正職員以外 (人)	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	平成21年度の機構改革に伴い、社会教育一般事務費から分離設定。平成25年度から市長部局に移管。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	新型コロナウイルス感染症の影響により、行われない文化行事等もあったが、徐々に行事も開催され始めている。								
	今後の予想される周辺環境								
	高齢化が進む中、高齢者の生きがいづくりなどの面から、文化的活動への参加の重要性は高まっていく。今後も文化関係団体と連携を取りながら、文化活動の支援を行う。中学校部活動の地域移行について関係機関と協議を行い、準備を進める。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与 (税金支出)	A	文化活動を振興する団体や市民の文化活動等を支援することで、市民の文化レベルの維持と向上を図ることができる。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	文化振興団体との連携をとりながら、円滑な事務を行った。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	市民の文化活動の支援等については、向上させる余地があると思われる。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	本市の文化振興を推進するため、文化振興団体との連携を深めるとともに、文化振興団体の組織強化等の支援に取り組む必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	文化振興の担い手として期待する文化振興財団と共に、市民や団体等の文化活動の支援に取り組む。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								

令和5年度 事務事業評価表 (令和4年度実績)

事務事業名		文化振興団体助成事業費			担当所属	文化スポーツ課			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	2 文化・芸術の振興		会計種別					
	推進施策	1 文化・芸術活動の促進		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市内文化振興団体（周南市文化振興財団、周南文化協会、周南郷土伝統芸能保存協会）							
	意図	市民の文化活動を振興する団体を支援することで、市民が文化芸術活動に触れる機会を増加させる。							
	成果	文化芸術活動の支援と地域文化活動の振興により効果的に推進され、市民文化の振興、向上に寄与することができる。							
	手段	各団体の運営及び事業に対して支援を行う。							
指標	活動指標	指標名		単位	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	
		自主企画事業入場者数（文化振興財団）		目標値	人	10000	10000	10000	10000
				実績値	人	339	2139	4800	-
				目標達成度	%	3.4	21.4	48.0	-
コスト	(単位：千円)		平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算		
	トータルコスト		27,494	27,688	28,876	32,036	38,784		
	事業費		26,042	26,042	26,674	30,162	36,046		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	5,984		
	一般財源		26,042	26,042	26,674	30,162	30,062		
	人件費合計		1,452	1,646	2,202	1,874	2,738		
正職員		1,452	1,646	2,202	1,874	2,738			
正職員以外 (事業費集計済分)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
人員	正職員 (人)	0.20	0.23	0.31	0.26	0.38			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	市民の文化活動を振興する団体への支援が必要であるため、補助支援を行う。								
	現状の周辺環境								
周南文化協会、周南郷土伝統芸能保存協会については、会員の高齢化、減少がみられる。新型コロナウイルスの影響により、中止となった事業及び入場者を制限して行う事業があった。									
今後の予想される周辺環境									
周南文化協会、周南郷土伝統芸能保存協会については、会員の高齢化とともに会員数の減少が進む可能性がある。今後も文化関係団体と連携を取りながら、団体への支援を行う。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	受目的性	1. 市の関与（税支支出）	A	各対象団体への補助支援を行うことにより、効果的に市民文化の振興、向上に寄与することができる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業及び入場者を制限して行う事業もあり、目標は達成できなかったが、文化振興団体との連携、団体への支援を行うことにより、市民文化の振興が図れた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	より効果的な支援となるよう、事業の実施手段等について、各文化振興団体と継続的に協議をしていく。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	各文化振興団体は本市の重要な文化振興の担い手であることから、組織強化等、継続的に支援する必要がある。							
改革案	今後の実施方向性	維持	各団体の運営強化及び特色ある事業に対して支援を継続する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								